

経営比較分析表（平成29年度決算）

千葉県 酒々井町

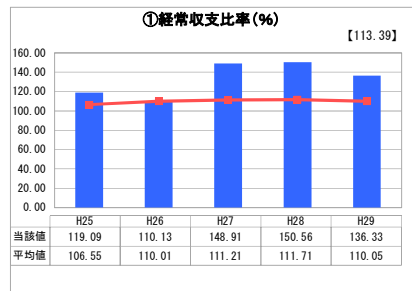
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	85.26	91.91	3,240	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,954	19.01	1,102.26
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,966	17.18	1,103.96

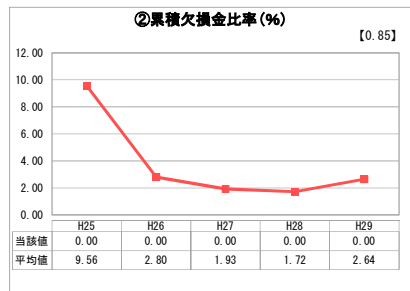
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

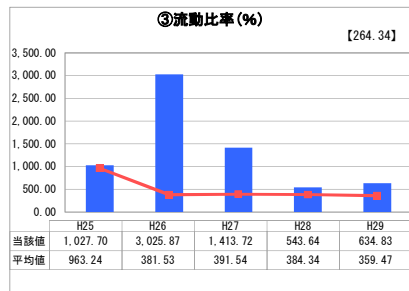
1. 経営の健全性・効率性



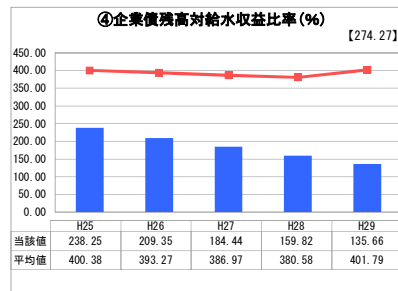
「経常損益」



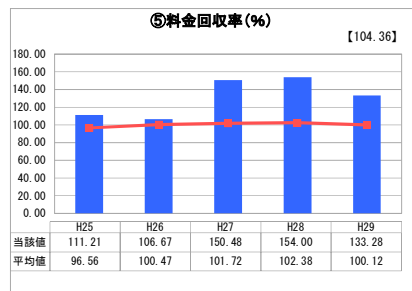
「累積欠損」



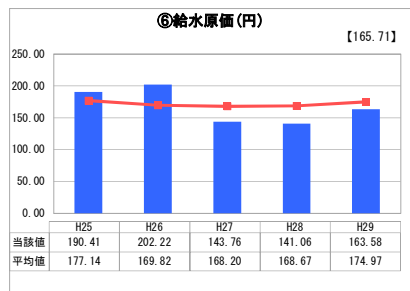
「支払能力」



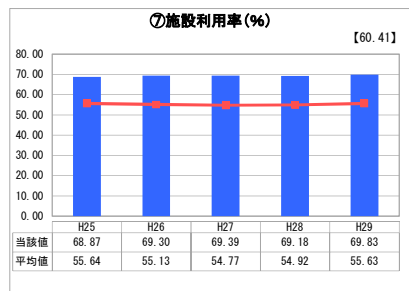
「債務残高」



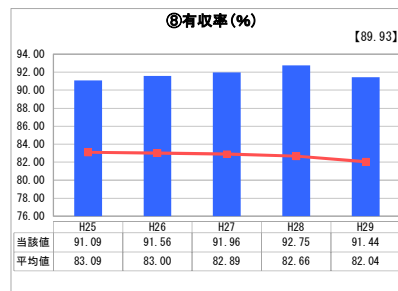
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

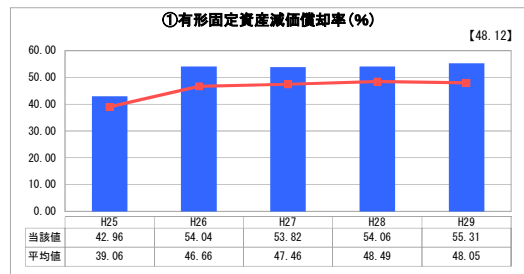


「施設の効率性」

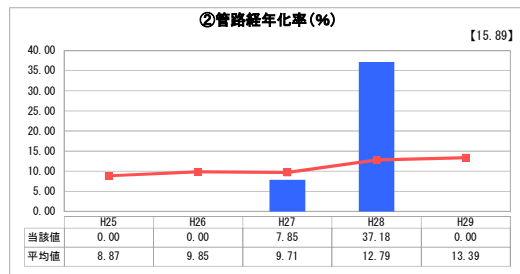


「供給した配水量の効率性」

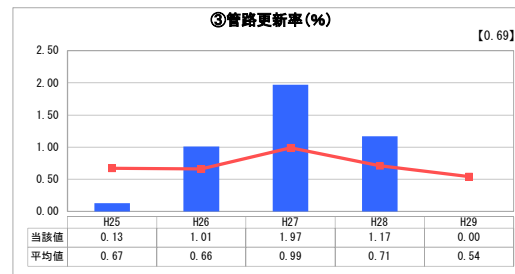
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営収支比率が100%以上で推移しており、累積欠損金も発生していない。
また、料金回収率や有収率、その他の数値も類似団体平均値や全国平均に比べ良い水準にあり、経営の健全性・効率性については良好な水準にあるものと判断できる。
なお、今後は、人口の減少等により収益の伸びは期待できなくなるため、より効率的な経営をしていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

昭和40年代後半から昭和50年代にかけて大規模な住宅開発に伴い布設した管の老朽化が進み一気に耐用年数を迎えることになる。
今後は水道ビジョンに基づき中長期的施設の更新等を実施していかなければならないものと考えている。

全体総括

現時点では、経営状況は概ね健全な水準にある。ただし、今後は、人口減少等により給水量の大幅な増加は見込めず、収益の伸びは鈍くなっていくものと考えられる。
また、管路等施設の老朽化が進み、修繕費や更新工事費が増加していくものと思われる。そこで、今後は、水道ビジョンに基づき、中長期的な経営や施設の更新等を展開していかなければならない。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。